

性教育だより

～ 2年生 ふりかえり 号～

平成 29 年 12 月 22 日

大阪市立淀川中学校

性教育委員会

12月11日の1限と、12日の5・6限に性教育をしました。どんな内容だったか覚えていますか？今回のテーマは『性情報の選択』と『多様な性のあり方（LGBT）』でした。振り返ってみたいと思います。

性に関する情報

- ・ 手に入りやすい情報の中には、信頼できないものが隠れている場合がある。
- ・ 正しい情報を得るためには、その情報を書いた人が信頼できるかどうか、自分で調べ、確かめることが大切。
- ・ 自分で思い込まずに、信頼できる人に相談しよう。

エル **L** レズビアン
ジー **G** ゲイ
ビー **B** バイセクシュアル
ティー **T** トランスジェンダー



『性に関する情報』は、情報源によってそれぞれメリットとデメリットがあります。いろいろな情報源がありますが、「からだ」「恋愛」「性」のことで気になることがあれば、自分で思い込まずに信頼できる人に相談することが大切だと勉強しました。

『多様な性のあり方』については、LGBTとは何か、ということを勉強した後、実際にLGBT当事者の井上鈴佳さん、白木理さんのお二人のお話を聞きました。LGBTは人口の7.6%にいられており、自分の周りにいないのではなく、当事者の人が言っていないだけ、自分に見えていないだけだったということでした。LGBTとして見ないで、一人ひとりの人間として、個性として見てほしいとお話しされていました。放課後は個別相談もしていただきました。

・・・みんなの感想を紹介します・・・

- ・ LGBTの人はテレビでしか見たことがなかったけれど印象が変わった。
- ・ 珍しいものではなく、自分が思っているより身近にいるんだなと思った。
- ・ 性別は、くっきりと男性・女性と分けるのではなく、グラデーションがあることが心に残った。
- ・ LGBTでも、そうでない人も、差別するのではなく、もし相談されたら、しっかり受け止めようと思った。
- ・ LGBTだからといって悩んでいたりほかの人とは違うということもなく、普通なのだなと思った。
- ・ 自分がLGBTだとわかるのが、物心ついたころからわかる人もいれば、大人になってから気がつくという人もいて、人それぞれで違うということが心に残った。
- ・ 井上さんや白木さんが周りの人から何も嫌なことを言われなかったと聞いて、周りの人の気遣いが大切だとわかった。私もそんな雰囲気を作れるようになりたいと思った。
- ・ 人と違うことを恥ずかしがらず、自分らしく生きていきたいと思った。

・・・最後に・・・

ALLY（アライ）＝味方 として今日からできること

- * 周囲に当事者がいることを意識して、使う言葉を変えてみる。（おかま・ホモ・レズ・元男・元女などの言葉ではなく、正しい言葉を使う）
- * 無意識の偏見に気づく＆なくす。（彼氏・彼女→恋人・好きな人・パートナー、男らしい・女らしい→自分らしい などの言葉で表現する）
- * 性に関する自覚は変わったり、揺らいだりすることもある。すぐに決めつけたり解決しようとしなない。どうしてほしいかは人によって違うので、その人がどう考えて何を望んでいるのか、じっくり本人と話す。

カミングアウトしてもらったら？

- * まずは、「話してくれてありがとう」
- * アウティング（勝手に他の人に伝えること）は絶対にしない。